

2017年7月14日

腹腔鏡下大腸切除術を行った患者さんの診療情報を用いた
臨床研究に対するご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

この研究に関するお問い合わせ等がありましたら、下記の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】

Three-dimensional simulation and intraoperative ultrasonic navigation for laparoscopic colorectal surgery with preservation of the left colic artery

【研究機関】 北播磨総合医療センター

【研究責任者】 北播磨総合医療センター 外科、消化器外科 浦出 剛史

【研究の目的】

大腸癌に対する腹腔鏡下S状結腸、直腸手術はリンパ節郭清を伴う下腸間膜動脈（IMA）根部での処理が必要とされることが多いですが、IMA切離による吻合部の腸管血流減少により縫合不全のリスクが高まるとの報告があります。それに対して、腸管血流を保つためにIMAと左結腸動脈（LCA）を温存する手技も報告されていますが、その解剖学的特徴より正確な血管処理の技術が求められます。今回、LCA温存を伴う腹腔鏡下大腸切除術を施行するにあたり、当科の工夫として術前3Dシミュレーションと術中超音波ナビゲーションの有用性を検討します。

【研究の方法】

2015年11月から2017年3月までに術前3Dシミュレーションと術中超音波ナビゲーションを用いて、LCA温存を伴う腹腔鏡下大腸手術を施行した症例を対象とします。

術前に腹部造影CTからSYNAPSE VINCENT（富士フィルム）を用いて3D血管構築画像を作成し、IMA、LCA、S状結腸動脈の血管走行の把握を十分にシミュレーションしました。また術中には腹腔鏡用超音波を用いて、リアルタイムに血管同定を行い、リンパ節郭清を伴った血管処理を施行しました。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

この研究の対象となられる方で「ご自身の診療情報は除外してほしい」と望まれる方は下記お問い合わせ先までご連絡下さい。

【問い合わせ先】

北播磨総合医療センター 外科、消化器外科 浦出 剛史
〒675-1392 小野市市場町926-250
TEL 0794-88-8800（代）